
令和7年度 第2回練馬区子ども・子育て会議議事録

[日 時]

令和7年11月4日(火)午後6時30分から午後8時30分まで

[会 場]

練馬区役所本庁舎5階庁議室

[出席者]

越河委員、神委員、檜垣委員、古屋委員、若杉委員、尾島委員、小池委員、井上委員、梅澤委員、桑田委員、濱田委員、有村委員、野口委員、尾形委員

(事務局)

こども家庭部長、こども施策企画課長、子育て支援課長、保育課長、保育計画調整課長、青少年課長、子ども家庭支援センター所長、在宅育児支援担当課長、学務課長、健康推進課長

[欠席者]

土田委員

[傍聴者]

2名

[次第]

1 開会

2 議題

(1) 区のこれからの子ども・子育て支援施策について

(2) 子育てに関する情報発信のあり方について

3 その他

【会 長】 それでは、定刻になりましたので、令和7年度第2回練馬区子ども・子育て会議を開催いたします。

初めに、事務局より委員の出席状況について報告をお願いいたします。

【事務局】 委員の出席状況についてご報告させていただきます。本日の出席者は、委員15名中、14名です。委員過半数の出席を得ておりますので、練馬区子ども・子育て会議条例第6条第2項の規定により、会議は有効に成立しております。

【会 長】 それでは、配付資料の確認をお願いいたします。

【事務局】 (配付資料の確認)

【会 長】 それでは、次第の2、議題に入ります。本日の議題は2点ございます。まずは議題の1、区のこれからの子ども・子育て支援施策についてです。資料1-1から3が出ております。事務局よりご説明をお願いいたします。

【事務局】 (資料1-1～資料1-3について説明)

【会 長】 ご意見、ご質問などございますでしょうか。

【委 員】 資料1-2に、育児休業を取得する父親が近年急増しているとありますが、数は増えているが、子育てにしっかりと関われるだけの時間をちゃんと取れているかという疑問です。しかし、男性と女性でそれぞれ育児に参加する方が増えてきているのは体感としてもあるので、そこへどのような支援ができるのか考えていくべきだと思います。

仕事と子育てを両立しようとする、子どもが風邪を引くとどうしても休まないといけない。休むとその分の仕事は溜まってしまいます。結婚していない人や子どもがいない人がそれを見て、子育てに対する不安感が出てくるのではないのでしょうか。

子どもが病気になった時に安心してすぐに預けられる環境や、一日のうち2、3時間など、少しの時間でも仕事ができる時間が持てる施策があると良いのではないのでしょうか。

練馬区でベビーシッターの補助がありますが、病児保育や病後児保育では金額的に全く足りず使いづらいので、こうした制度が今後整えば、仕事と家庭を両立でき、これから子どもが欲しいと思っている人たちにも、子育てっていいなと思ってもらえると思います。

【会 長】 私も大学で学生たちと話していても、子育てのイメージが大変なものに見えているのは確かかなと思っておりますので、今のお話は本当にそのとおりだなと思って伺っていたところです。

【事務局】 子育てのサポートは、様々な視点で必要になってくると思っています。委員のおっしゃったように、子どもが病気になった時、ご両親が働いている場合の預け先は大きな課題です。使いにくいとご指摘いただきましたが、現在練馬区では、病児・病後児保育を8か所で行っています。

東京都では、保育の第一子無償化の制度が始まっています。保育料全体の負担感が減っており、比較的使いやすくなっているのかなと思っています。

ただ、集団保育の延長という性質上、病気症状がひどい時にお預かりをするという制度ではないというところから、預けたい保護者の希望との差異は出てくると思います。なるべく皆様のニーズに応えられるよう、施設の方も頑張っているような状況です。

【会 長】 その他、いかがですか。

【委 員】 資料1－2の②番のところですか。私は子どもが小学校に上がるタイミングで勤務時間を短くし、フルタイムから5時間勤務に減らしている状況です。ここの集計の内訳として、フルタイムが増加しているのか、短時間勤務や夏休みの期間は働けていない等、詳細の情報が入っているのか知りたいです。

【事務局】 この資料は、子ども・子育て支援事業計画の策定に向けたニーズ調査の結果を基に集計しています。集計に当たり、フルタイム勤務や短時間勤務等の情報まで区分した上での作成は行っておりません。

【委 員】 うちの場合は少し特殊で、息子が障害児で特別支援学校に通っているため、バスが帰ってくるまでの間しか働けないという状況があり、他のご家庭と少しそこは違うのかなと思います。しかし、一般のご家庭でも、1年生は4月は帰宅時間が早く、5月以降も1・2年生は特に早い時間で帰宅します。学童に入ればいいが、学童に入らなかったり、ねりっこクラブだけ利用しているご家庭など、様々な状況があります。

また、小学生になると勉強のサポートが必要になるため、保育園とは違う状況になってくる中で、お母さんが勤務時間を短くしたり、在宅勤務を多くしたりしているようなことを周りから聞いたため、このグラフだけで、たくさんの方がフルタイムで働いているとは見られないのではと思い、内訳を伺いました。

【会 長】 他の方もいかがでしょうか。

【委 員】 全体的な子ども・子育て支援施策が充実してきたという資料を見せていただき、いろんな数字が増えてきていて、本当に素晴らしいことだと感謝しています。

全体的な今後の流れで、国を見ていたときに、今後、質の高い保育の確保・充実という記載がありました。これまで圧倒的に足りていなかった保育需要に対し、いつまで100%を目指していくのか。今度は数だけではなく、どういう意味で質を高めることを目指していくのか、いま一度確認したいと思います。

区ではどう考えるのか。お仕事したい方がお仕事できるということも大事ですが、全部の家庭が共働きになるのを目指すべきなのかということ、それも違うのかなと思います。

子育てが少し楽になること、これから子どもを産み育てるような方たちが、子育てが楽しそうだと思えることももちろん大事ですが、子育ては大変なところもありますし、必要な大変さというのをどう残していくのか、とても難しいことだと思います。正解がないからこそ、単純に満足度を上

げると大人の満足度が上がってしまって、子どもの育ちの質をどのように確保していくのか、考える必要があると思います。

【事務局】

保育の質とは、とても難しい概念だと思っています。人によって捉え方が変わってくる部分もあり、国も色々な計画で保育の質をこれから上げていくという方向性は打ち出していますが、なかなか具体的なやり方が見えてこないと練馬区としても感じています。

そういった中で、練馬区として大きく3点ほどの視点で質の向上に取り組んでいます。預かっているお子様に必要な保育内容については、日々更新されていく。当然その時勢にも応じて必要な知識も出てくる。そういった学びの場は常にあるような状況にしたいと思っています。練馬区は、「ねりまな」といった区内の保育施設の職員の皆さんが全て参加できるような研修システムを組んでおり、専門分野、カテゴリーごとに幾つも研修が受けられる状況をつくっています。

そういった学びの環境が1つ、あとは、現場に保育士になるべく多く配置されているような、人が手厚いという環境の整備です。国でも配置基準を決められていますが、それ以上に配置を希望する事業者がいらっしゃれば、それを後押しできるような補助システムを用意させていただいています。

もう1つは、これは国も推奨していますが、寄り添い支援です。練馬区の職員、園長経験者の職員が巡回するような形で各園に赴き、お悩みを聞いて、相談を受けたり、アドバイスしたりとか、そういった取組をしています。あわせて、心理士、看護師、栄養士などといった専門職の職員も現場を回りながらそういったサポートを行っています。そういった三方の取組で質の向上を図っています。

【会 長】

それでは、副会長も一言お願いします。

【副会長】

研修システムが多様にあるということは、同時にその研修に出かけるための人員配置をする必要があり、園側にも補助など、先生が安心して出かけられる制度が必要になってくるなと思いました。2点目の配置基準とも関わってくると思います。

練馬区が魅力ある保育、質の高い保育を展開しているということを、広報を重ねたりしながら、人員はなるべくすばらしい方が練馬区で働いていけるようにするというこも、質の向上にも関わってくると思います。

3つ目の寄り添い視点、非常に重要です。障害を持つお子さんや、特別な支援を要するお子さんに対して、個別の指導計画を立てたり、集団の中でのその子のウェルビーイングをどう保障していくかというところで、巡回等支援されているのはすばらしいと思います。

一般的によく行われている質の向上ということでもう少し挙げるとすれば、小学校との連携です。保育だけにとどまらず、ぜひ保育の魅力や保育の子どもの育ちを、その上の学校教育と連携、協力していけるような体制を作ることで、子どもの育ちにとって質の向上につながっていくと思い

ます。

あとは、練馬の保育の質の高さなどについて、教育・保育関係者が共に語ったり、一堂に会して、区主導で語り合ったりできるような場を設ける、というようなことも、やっている市区町村はあると思います。

【会 長】 他に意見ありますでしょうか。

【委 員】 資料1－2の①の出生率の件で質問です。平成28年から出生率は減少傾向ですが、練馬区の人口は増加しています。これについて、区独自に何か分析を行っていますか。

また、資料1－1を見ると、練馬区モデルなど非常に魅力のある施策を行っていますが、出生率に結びついていないのかなと思います。出生率を高めるための議論は実際に区の中で行っていますか。

【事務局】 今年3月に策定した子ども・子育て支援事業計画では、総人口の推移をお示ししています。総人口については増加を続けていく流れで、今後、大江戸線の延伸など、まちづくりが進展していきますと、人口は更に増えていくと見込んでいます。

一方、子どもの人口は減少を続けているという厳しい状況があります。この理由は少子化の議論になってくると思いますが、その理由は単純ではなく、何か1つを取ってそれが原因というものではないと思います。

子どもを産む、産まないというのも、その方ご自身の意思というところもありますし、経済的な要因が一番なのか、他の要因も色々あるのか、様々なものが複合的に重なって今の状況があるのかなと思っています。

少子化の原因は、議論を重ねても答えが難しいところがありますが、少子化の構造的な問題を転換するためには、やはり国の役割が基本的には大きいと考えています。区としましては、練馬区で子育てをするご家庭や、その子どもたちが住みやすいまちであるということを目指して、今回資料1で示したような様々な施策を展開してきたところです。

引き続き、区民に最も身近な自治体としてできることをこれからも地道に積み重ねていきたいと思っています。

【会 長】 その他、ご意見はよろしいでしょうか。

【委 員】 父親の育児参加はとてもいいことだと思っていて、幼稚園のお迎え率も上がっており、入園説明会や父母会もお父さんが来てくださることがあります。その一方で、労働者不足の中で、父親の育児参加は現実的なんだろうかという思いがあり、そこに社会の実情と、父親の育児参加という御旗が乖離しているような気がします。

子どもたちが本当にかわいい時期に、子育てに時間がとれるという意味ではとてもいいことですが、一方で社会的には労働者不足の中で、お父さんたちが育休を取りやすい職場環境になるのかというところが1つ。

それから、育児経験がある女性は社会の資本であり、社会のケア力を高めるためには、育児経験のある女性が増えるべきだと思います。一方で、例えば子どもに恵まれないとか、子どもをつくらないというのも自由だと

思います。

うちの幼稚園は今、育児経験のある先生方が多いですが、みなさん人間的にバランスが良くまさに保育の質を上げるために必要な人材です。保育の質を求めるのであれば、育児経験のある女性になるべく保育園や幼稚園に入ってくれるといいのではないのでしょうか。

そもそも子育て支援は、子どもの健やかな成長のためです。しかし、これだけの支援事業をやっている、子どもは増えません。そもそも出生率がなぜ下がったのか、根本原因を探るべきだと思います。子育て世帯が豊かになっていないからではないのでしょうか。子どもの健やかな成長のためにできることは、保育園をつくることだけではないと思います。

【会 長】 ではその他、ご意見いかがでしょうか。

【委 員】 資料1－1に練馬こどもカフェが10店舗になったとありますが、今後、店舗は増えるのでしょうか。また、現在の利用率が知りたいです。

続いて、2ページ目の出生率について。今練馬区は0.99とありますが、練馬区の目標値が知りたいです。

3つ目です。3ページ目に令和7年4月に東京都認証学童クラブ事業開始とありますが、これは今練馬区で事業開始をしているところがあるということでしょうか。もしあるのであれば、民間学童か、もしくは新規事業者なのか知りたいです。

4つ目です。公立、私立、国立小学校それぞれの保護者が集まって、今後会議などができるのであればとても興味があります。小学校1年生の息子は公立小学校に通っておらず、地域の区民も行ける公開授業でしか公立小学校のことを知る機会がなく、もっと知りたいと思っています。もしそういう会議があれば、やっていただけたらうれしいです。

【事務局】 練馬こどもカフェは、現在10店舗で実施しています。概ね地域バランスも取れて展開できていると思っています。ただ、大泉学園町など、まだ少しこの事業の空白地域が存在します。

本事業は民間のカフェ等との連携が必要なので、ご協力いただける店舗とマッチングしないと実現できないのですが、大泉学園町の地域にご協力いただける店舗がなかったり、講座をお願いする保育園や幼稚園が近くに無かったりして、なかなか実施できない状況があります。

計画上は、来年度も1店舗増やしていくこととしています。大泉学園町や石神井台、関町地域など、空白地域で実施ができるよう展開していきたいと考えています。

利用状況についてですが、事業の実施に当たり、その日の定員が大体親子5組から、多いところで7組程度となっています。講座の受付を開始すると、すぐに定員が埋まってしまう日も多く、利用状況は非常に良く、人気の事業となっています。

それから2つ目、出生率が今0.99の状況ですが、区として具体的な数値目標を立てているわけではありません。少子化が進行する中、上昇に転じ

たとして、出生率が何パーセントならベストなのかは、非常に難しいところだと思います。具体的な目標値はありませんが、子育て施策の様々な展開によって、数値が上向いていけたらと思っています。

【事務局】

最後3点目、認証学童クラブについてお答えします。

今、ご質問にありましたとおり、東京都の認証学童クラブの制度自体は、今年の4月から始まっております。具体的に要綱等詳細が示されたのが今年の3月という状況で、1回目の認定自体も、夏頃に初めての認定があるというような状況です。現在、練馬区では認定を取っている学童クラブはありません。東京都の方で、既存の学童クラブに対する支援の制度を、3年間の経過措置期間中にそちらに切り替えていくという方針を明確に示されていますので、区としても認証学童クラブへの対応を進めていくということで、準備を今進めております。

今、数として申し上げられるのは、来年度新しく小学校2校で、ねりっこ学童クラブを新たに開設しますが、その学童クラブについては、東京都の認証学童クラブの基準に沿った職員の配置など、様々な要件を満たした形で事業者の募集をして、スタートさせていただいて、順次その他の学童クラブについても、区としても切替えを進めていくという状況でございます。

【委員】

私が一番問題だと思うのは、人材の確保です。これが今とても難しい現状です。今決まっている、子どもの人数に対する職員の配置では到底子どもを見ることはできません。

そういう中で私が危惧しているのは、保育士養成学校の減少です。国が保育園を増やすなら、当然保育士の養成校もたくさん作る必要があると思います。でもそれに反して、どんどんその保育の学部を減らしていく。これは今、都内だけでなく全国的にかなりその傾向が強まっています。

職員が必要なだけ配置できない現状であれば、当然そこに事故が起きる。そして事故が起きると大々的に報道され、それを聞いた学生たちは、もう保育の世界には身を投じない。逆に本人が行きたくても家族が止めるという現象が、今起きています。ですから、安全で質の高い保育を提供していくという意味で、人材の確保のため保育士の養成校が増えるような、国のレベルで支援が大事なのではないかと思います。

少子化が進み、30年前から対策を国は行っていますが、一向に成果がありません。やはり子どもが私たち大人の姿を見て、大人たちが不平不満や、大変だとばかり言っていると、次の世代にもそれは移っていくと思います。だから今生きている私たちが、いかに日々の生活で豊かに楽しく生きているかということが、次の世代に伝わっていくのではないかと思います。

園で言えば子どもが中心ですが、子どもはあまり文句を言いません。今、保護者の方の意見が非常に細分化しています。保護者の方に、色々な要望があっても当然いいと思いますが、それぞれの家庭の事情が違いますから、要望全部に沿った保育は不可能です。その中でどういう形がいいかという

のを考えながら、それぞれの園が一生懸命やっているのが現状です。

私たちの私立保育園協会では、研修グループだとか交流グループ、予算要望グループというグループに分かれてそれぞれ活動していきまして、非常に様々な意見交換を行っています。

お互いの園同士を行き来し、どういう保育を行っているかという意見交換をすることは非常に大事です。お互いの現実を見て、どう創意工夫を行っているか知っていくことが、質の高い保育にもつながっていくと思います。

子どものために、どの園もしっかりと子どものほうを向いてやっているということは事実ですので、これからも、区の保育課の皆さんと共に手を取り合って、さらに良くなっていくような方向を目指していくべきだと思います。

【委 員】 練馬区のねりま羽ばたく若者応援プロジェクト、とても良い試みだと思っております。児童養護施設を出た後、18歳になったからと急に追い出され困ったという話を周りで聞くので、いいなと思ったのですが、今具体的な支援をした実例があれば、ぜひ教えていただきたいです。

【事務局】 ご評価いただきましてありがとうございます。

今、実際に事業を活用いただいている方では、住居費に関し、家賃補助を活用されている方がいらっしゃいます。その他、居場所の支援を毎週金曜日の夜に行っていますが、そちらに定期的にいらっしゃって、ご飯と一緒に作って時間を過ごしたり、困っていることがあればそこでご相談を受けているような形で支援をしています。

その他、弁護士相談も行っています。例えばデートDVの被害に関する相談や、日常生活の中で困る法的な対応等をご相談いただいたりしています。引き続き、生まれ育った環境によらず、自らの希望する未来を切り開いていけるよう、支援を継続していきたいと考えています。

【会 長】 その他、いかがでしょうか。

【委 員】 私は、根本的に子育て世帯が練馬区に入ってくないと未来がないと思っています。将来、地元の小学校や中学校に入るような、あるいは将来地元の経済を回してくれるような世帯が練馬区へ入ってくる施策というのを具体的に進めていくことが、重要ではないでしょうか。

【会 長】 それでは、続きまして、議題の2、子育てに関する情報発信のあり方についてです。事務局より資料2のご説明をお願いいたします。

【事務局】 (資料2の説明)

【会 長】 それでは、ご意見はありますでしょうか。

【委 員】 広報の強化は、私は保護者として非常に大事な観点だと思っております。私は第1子から数えて15年ぐらい子育てをしています。いまだに行政のサービス全てを把握するということは、かなり難しいです。こういった形で情報が集約され、かつ、ニーズに応じて調べたり、また子どもたち自身も調べてたどり着いたりできるものや場所は、非常に大事だと思っています。

す。

練馬区もそうですが、日本の保育、学童の施策は本当に素晴らしいです。日本の保育と同等の質で、海外で安価で提供されることは、なかなかありません。日本の保育、教育等の各種のシステムを超えるものは体感的にないと感じています。練馬区は、子育て、子育てに対する支援は手厚いです。例えば、子育てや教育に関する公的な相談機関や、子ども達自身が相談する場も練馬区内に複数あります。また、保育の申請においても、手厚くニーズに寄り添って対応してくれる区でもあります。様々なサービスや施策を、知りたい人は知れるという場所を築いてもらえれば、より多くの人に届くと思います。

最後に、公立に通われていないお子さんや親御さんの場合でも、地元の公立ではどういった教育がされているか気になると。これは確かにそうだと思います。

例えば練馬区には、公立、国立、私立、インターナショナルスクール、不登校のお子さん等のためのオルタナティブスクール、フリースクールなど、文科省が一条校と認めていない学校もあるため、学校一つ取っても選択肢が様々あります。例えば、1つの広報上のディスカッションのトピックとして、様々な立場、環境で教育されている親御さんたちがお話をするような会を、広報の1つで取り上げて面白いと思いました。同じ小1の壁でも、公立、私立、国立など、それぞれお子さんが抱えている課題は違うと思います。もしお子さん自身が話せるのであれば、お子さん自体にフォーカスを当ててもいいと思います。切り口としては幾つもあるのではないのでしょうか。

【会 長】 確かに、色々なお話を聞くことができれば、これから進学、就学というお子さん方に、多様な選択肢を選んでいくこともできるのかもしれない。その他いかがでしょうか。

【委 員】 5ページを見ると、練馬区のSNSについて「知っているものはない」という回答が6割近くいらっしゃいます。広報の内容については、その次の段階です。まず練馬区民に対して、練馬区が発信しているものの周知を行うと良いのではないのでしょうか。

先ほどの子育て支援についても、アンテナを張っている人たちには情報が入りますが、入らない人の方が恐らく圧倒的に多いと思います。区報を見ている50代から60代が、区報で同じだけの情報を拾い切れるかというと、難しいです。

区全体に情報を届けるという観点からすると、練馬区の魅力や、練馬区が行っていることをみんなが知ることができ、だから練馬区いいよねという方向に進めていけばいいのではないのでしょうか。

その先のコンテンツの内容については、専門的な人たち、例えばインフルエンサーに外注するなどあると思いますが、まずはせっかく練馬区でこれだけのことを行っているのだから、それを知ってもらうことが大事だと思います。

ます。

【委 員】

例えばねりまママパパてらす等、練馬区で公募されているものは申込み期間が短く、1年に1回しかないことが多いと思います。申し込みたいと思った時に、今は自分で携帯にアラームをかけてリマインドしています。

抽選申し込みで外れることもある一方、定員割れしているものもあり、とてももったいないと思っています。例えば申込み期間が短いものについては積極的にSNSで通知する、あとはサイトで、自分の興味のあるものにチェックを入れたら、それに関する情報がメールで送付されるというようなことがあれば、とても便利だと思います。今後公式のアプリやサイトを作っていく中で、ユーザーの興味のある分野についての通知を積極的に発信していただきたいです。子どもがいらっしゃる方は、幼稚園や保育園からお手紙が来たら1回くらいは目を通すと思うので、1年に一度でいいので、子育てアプリの案内を出せば登録するきっかけにはなるのではないのでしょうか。

【会 長】

その他、ご意見いかがでしょうか。

【委 員】

3ページのところ、私はここに書いてある中では、SNSはLINEを登録しています。町なかの掲示板もよく見えています。ホームページに載っていない地域情報等が書いてあるので必ず見るようにしていて、大事にしています。

一番よく見ているのは区報です。区報は、月に3回の発行であれば、配布をすればいいと思っています。以前、お金を払えば配ってもらえるという情報をどこかで見た気がするのですが、どうでしょうか。

この調査を見ると、区報は18歳から29歳以外には圧倒的に認知度があり、情報の入手源として役立っています。区報の中身の工夫をもっと行えば、より伝わるようになると思います。スマホがあまり使えない高齢者の方以外は、細かい情報についてはChatGPTなどで調べられるため、そうやって情報を得る方は多いと思います。ですから、様々な情報を過去の分も消さずに残しておけば、その情報をまとめてくれるサービスがAIであるので、それを利用すればいい。練馬区報のような紙の媒体は、手元にあれば、何か面白そうであれば思わず見てしまう。

保育園、小学校からメールやアプリでお知らせが来ても、私は大事なものの以外はほとんど見ておらず、やはり紙の情報を伝える能力の高さを改めて認識しています。私は、紙媒体が一番伝えたいことが伝わるんじゃないかと思いました。

【事務局】

ねりま区報は、日刊6紙を取っている方につきましては、新聞折込をさせていただきます。新聞を取られていない方に対しまして、区立施設、駅、コンビニエンスストア、一部のスーパー等に配架しております。

新聞未購読の方で、施設やコンビニ等で区報の入手が難しいという方に対しては、無料で区報を送付することも行っています。区ホームページからお申し込みいただくと利用できます。

区報から情報を得るという方が、現状もやはり年代を追うごとに多くな

ってきております。

区報は月3回発行しているのですが、様々な部署が区報を通じて、事業やイベント、政策等を広報したいということで、毎月各課から多くのリクエストが来ます。それを限られた紙面の中で効果的に区民の方に周知するためにはどうしたらいいかということを常に考えながら、併せて区ホームページやSNSをも組み合わせ、工夫を凝らしながら広報活動に取り組んでいます。

掲示板には、公設掲示板や町会・自治会掲示板がございます。ここにも区の事業やイベント等の掲示をさせていただいて、掲示板を見て事業やイベントに参加しましたという方がいらっしゃいます。やはり常に目に留まるところに掲示をしているということも有効な手段だと、区としても考えております。

また、保育園の入り口のところにも掲示コーナーを設け、子育て世帯向けの情報を発信しています。必要な情報を必要な区民の方にどのように届けるかというのは、常に工夫し、改善していくべき課題と考えております。特に子ども・子育て世帯の方々に対していかに伝えるかということを、今日ぜひご意見をいただければということで、テーマとして提示させていただいたところでございます。

【会 長】 新聞を取るご家庭が少なくなっています。そういう意味ではプッシュ情報として届ける手段が、課題になってきているところがあります。一方で、情報が多くあっても、見過ごしているところは確かにあるかもしれません。

【委 員】 私も、「ねりはぐ」やLINEは入れています。「ねりはぐ」は、練馬こどもカフェの申込みがここからできたり、LINEは、保育園に入れるための指数が計算できたり、ここからじゃないとこれができないみたいなものがあると、ダウンロードせざるを得ないですし、そもそも認知されていないものも認知せざるを得ないところはどうしてもあると思います。ですから、区だからこそできる、ここからしかできないみたいなものがあると、認知度は必然的に上がっていくと思います。

民間の団体や個人の方が、練馬区や近隣地域のイベントをまとめた情報サイト、インスタグラムは既にあり、区のイベント等もそれに包括されています。ですから、区だからこそ出せる情報がないと、あえて区のをフォローしたり、見に行くことはないと思います。

子育てしていたら、区のイベントだから行きたいとかというよりも、楽しそうなイベントが近隣であれば行きたいというほうが多いと思います。何か、そういった区だからこそ出せる情報や、もう既にされている民間の団体、個人の方とタイアップして情報を出していくのがいいのではないのでしょうか。

【委 員】 練馬区としての発信という物理的な意味での子育てのゴールは何なんだろうと思いました。「安心して子どもを産み育てられ、子どもたちが健やかに成長できる環境」というのは、方向性、ミッションだと思いますが、こ

の手段を使って、練馬区として子育てがどういったものがゴールなのか知りたいです。例えば子育て関連アプリのフォロワー数を何人にしたいですか、そういうのが聞きたいと思います。

60歳以上の方は主にSNSを見ていない、見る手段が分からないというのが一般的な回答なのかなと思っています。発信というのは、区民の未来を共有する手段だと思うので、その手段によって、どういうゴールが練馬区としてはあるのか知りたいです。

区報は私も絶対に見ます。区報は、とにかく小さい字でぎゅっと詰まっているので、ページ数を増やして、文字を大きくしてみるのはどうかなと思います。

区報を使った経験といたしましては、外国人交流会に参加をしました。私はそこに出席をして、南アフリカ人と友達になりました。友達になって、交流し、帰国の際に彼が持っていた家電を譲ってもらいました。

そういう循環、回り巡っていいことがあるなというふうに思う。すごくここで言いたいなと思いました。

あともう1つ、道にある掲示板についてです。私は、社会福祉事業みたいなことを民間事業でやっているのですが、掲示板は、いわゆる営利目的な情報は設置することはできない。今後、練馬区は掲示板の利用について規制が変わる予定があるのか知りたいです。

【事務局】

1つ目の目指しているところは、「安心して子どもを産み育てられ、子どもたちが健やかに成長できる環境を整える」ことであり、基本目標として掲げているものです。この目指す基本目標は、決して情報発信だけで成し遂げられるわけではないので、その下に4つの基本方針を示し、さらに方針に基づく施策をカテゴリーで区分して、様々な事業を展開しているという形になります。

目標を達成するためには、一つ一つの事業を着実に実施していかないと到達できないので、事業ごとに所管において具体的な数値目標などを立てて取組を進めています。

例えば、ねりま子育て応援アプリは、年間のダウンロード数5,000件を目標値として設定しています。周知の取組としても、練馬まつりに出展をして広報したり、母子手帳をお渡しするときに、チラシを折り込んで周知したりするようにしています。

また、魅力的な内容が発信できることが大事かと思いますので、分かりやすく情報を届けるため、広報力を区全体として努力しながら、伸ばしていきたいと考えています。

掲示板については、私のほうで今、詳細を把握できておりませんので、所管に確認の上で、また皆さんに共有させていただきます。

【委員】

今魅力的なものはたくさんあるので、何か区が出すのであれば、便利さをぜひ求めてほしいです。区の全ての手続きが、オンライン化できるといいなと思います。

必要があるアプリであればダウンロードします。アプリがある程度魅力的であれば、そのまま置いておきますが、正直アプリを増やしたくないので、もう終わったら消します。多分、子育て世帯はどんどんアプリは増えるんです。アプリが便利であれば使い続けると思うので、工夫していただければいいかなと思いました。

【委 員】

練馬区はとてもすてきな場所だと私も思っていて、練馬区で子育てしていてよかったと思います。しかし、便利がゆえに、不便さをもう少し楽しんだ方がいいのではないかなと思っています。せっかくイベントに出向いたのに、横のつながりをしないとか。横のつながりをつくれば、わざわざそのアプリを入れなくても、その人から情報をもらえたりというのもあるので。練馬区も少し前までは、そういう横のつながりをすごく大事にしていた区だと思っています。

うちの学童も入退室のアプリを入れて、便利にはなってきましたが、今まで連絡帳でやり取りしていたのをアプリで行うと、本当に言葉だと難しく、結局電話をかけたり、6時以降に来ていただいております。人間同士のつながりがないと、子育ては面白くないし、そういうつながりが子育てをしているからこそもらえるご褒美だと思って、今学童をやっています。

何か子どもたちもすごくいい子になってきてしまったなと思っています。私は、大人受けをするような子どもが増えているのは、やはり親御さんたちが忙しいからかなと思っています。

お仕事をされることもすごく大事だし、自分の自信にもつながるし、とてもいいことだと思いますが、みんなで地域で育てる、みんなにつながって子どもを育てるというのが、私は理想だと思います。時代に合わせていろんなことを考えるのは大事ですが、根本的にあるのは、子どもが生きやすい世の中になることかなと思います。

【会 長】

それでは、ここで副会長からもご意見を頂戴できればと思います。

【副会長】

1つ目の議題は病児・病後児について、障害を持つお子さんへの施策について、それから社会の労働力の問題、人的資本に対しどういうケアを練馬区として行うのかということ。東京都も日本も様々議論はありますが、練馬区の中にもいろいろなバランス、区によって違うというようなご指摘があったと思います。

今回触れられていなく、でも皆様のご関心があったところは、少子化対策かなと思います。若者や子育て世帯への支援は、お金なのか、時間なのか、余裕なのか、それとも情報発信なのか、そういったところはさらにまた深く議論もできますし、色々な考え方があるのかもしれませんが。

そして2番目の議論については本当に面白く、委員からのご指摘もありましたが、やはり自分に必要感のあるアプリは入れていくし、情報を取ろうと思えば積極的に取っていくし、区報が大人気というところもありました。私も町の掲示板はよく見ます。そこに区としてどういう情報を入れて

いくかということに関しても、ご質問やご意見があったように思います。

私からの意見としましては、東京都のホームページは子どもの意見も聞きながらつくっているという、このプロセスが子ども施策を考える上で重要なことだと思いました。もちろん子どもを育てる保護者、保育関係者、教育関係者も共にということですが、どういうものを見たいか、子どもが使っていけるか。そういうことをプロセスの中でつくっていこうということも大事なのではないかなと思いました。

こうやって対話ができることが、非常に貴重な機会です。そしてその対話を広げるために、例えば公立、私立問わず、いろいろなところを問わず、練馬区の魅力や、これからどういうふうにしていけばいいのかというのを、選択的に考え、情報発信していくのも一つの手段というようにところも、ご意見をいただきました。

マイルストーン、数値目標、目標も難しいですが、ぜひこういった場の中で今後も議論していったって、今できている資源を大事にしつつも、今後どうそれを活かして新しくしていけるか。

アプリ以外にも、例えばホームページなど非常に利用率が高いものもたくさんありましたので、ぜひ色々な観点で進めていければと思っております。

【会 長】 私からは2点だけ。1つは、私も区報をたくさん利用させていただいています。もともとはあまり見ていなかったのですが、私は子どもの発達が少しゆっくりで、情報は横のつながりでお母さん方にいただくことが多く、そのつながりは今でも残っていますし、とてもありがたいつながりです。

横のつながりの中では区報の内容について話題に出る割合が高かったので、そういう意味では、口コミでの情報交換がありました。多分1人だけだと、自分のうちでアプリや検索だけになってしまうかもしれませんが、横のつながりが増えてくると、実はアナログなツールが使い勝手がよい、ということに気づくというのはあるかなと思いました。アプリなど、これからどのような発信手段を使っていくのか、皆様からもご意見を賜ったところですので、ぜひそこは大事にしていただければと思います。

あともう1点、国のこども基本法の大事な柱の一番最後に、子育ては希望を持ち、と記載があります。子育ての中で楽しさみたいな部分、自分の子ども時代は楽しかった、よかったと思うことがとても大事なのかなと思います。副会長からもお話があった、子どもの参画、ぜひ子どもが中心に、子育ての楽しさをこちらが親御さんもお支えしながら、一緒に考えながら、どういうふうに区の中でつくっていけるのか。

ここは手に手を取り合ってやっていかないとなかなか難しいところですし、強制するというよりは、むしろ一緒にやっていく手段をどうつくっていけるのか。ぜひこの会議の中で、少なくとも2年間ございますので、皆様と意見を交わしていければというふうに改めて思った次第です。

それでは、次第の3、事務局から連絡事項等ございますか。

- 【事務局】 次回の会議は、来年の２月から３月頃にかけて日程の調整をさせていただきます。
- 【会 長】 以上をもちまして、令和７年度第２回練馬区子ども・子育て会議を閉会いたします。